# 日本植物園協会ナショナルコレクション更新申請書

☑更新申請
（認定番号００２　これまでの認定期間　２０１８年6月１９日～２０２３年6月１８日）

■更新申請年月日　　２０２３年　2月　１日

■コレクションのテーマ
神代植物公園サクラソウ品種コレクション

■申請団体・申請者名
公益財団法人　東京都公園協会　神代植物公園サービスセンター

■申請団体の代表者名（個人での申請の場合は不要）
非公開

■申請団体・申請者の連絡先（住所、電話、メールアドレス）
住所：〒182-0017 東京都調布市深大寺元町 5-31-10
電話：042－483－2498
jindai-engei@tokyo-park.or.jp

■コレクションの所在地（コレクションが分散している場合は主たる所在地）
東京都神代植物公園　東京都調布市深大寺元町 5-31-10

■現地審査希望時期
２０２３年　4月　１５日　～　２０２３年　4月　２３日
希望する理由 : サクラソウの開花時期であるとともに、さくらそう展開催予定期間のため

■コレクションのテーマ

神代植物公園サクラソウ品種コレクション

■コレクションの概要

東京都神代植物公園は、１９６１年に開園し、開園当初から、園芸植物を栽培してきている。また、当園は、江戸時代に作出された伝統園芸植物の保存、継承、栽培に継続して取り組んでいく計画を有しており、今後も、積極的に取り組んでいく予定である。

なかでも、サクラソウは江戸の地に生えた野草から江戸の人たちが育てあげた唯一の園芸草花で、まさに江戸の花といえる存在であり、神代植物公園ではサクラソウの収集と保存継承に特に力を入れてきた。

１９６１年の開園時に、「さくらそう会」から１５０品種を入手して、保存、継承、栽培に継続して取り組んできており、開園から６２年経過しようとしているが、その数は同会との連携の結果、開園当初の約２倍の延べ３０４品種に及ぶ。

今回申請するコレクションは、この「さくらそう会」が認定している品種３２２品種のうちの２９２品種である。

園芸植物としてのサクラソウを栽培することは、その遺伝情報の保存、継承にとどまらず、栽培法から鑑賞方式、関連資料や伝承を含めて、文化的側面の保存、継承にもつながるものである。当園では、同会と連携し、サクラソウの開花期に、桜草花壇を再現して設置するなど、鑑賞方式の保存、継承にも取り組んでいる。

※「さくらそう会」について

サクラソウ園芸を普及するため、１９５２年に、発足した全国的な趣味園芸の会。世話人代表は神代植物公園の元職員でもある鳥居恒夫氏。

第二次世界大戦により絶滅したと思われたサクラソウの園芸品種は愛好家たちの努力で辛うじて残され、それを探して入手し、増やすことから活動が始まった。

同会は、戦後の新しい日本の社会に対応して、誰もがサクラソウを楽しめる会として始まり、古くからのサクラソウや桜草鉢、桜草花壇による鑑賞方式などについて伝承できる会員が集結し、かつ、サクラソウ園芸の発祥の地である東京を活動の中心としており、江戸時代からの遺産と伝統を引き継いでいる会といえる。現在の会員は約２３０名。

※「さくらそう会」認定品種

古くから伝えられた園芸品種を特定して、確実に将来に伝えるために「さくらそう会」が定める登録制度。様々な名称で残され栽培されてきた多数の品種の中から、特性を持った品種を一つずつ選別し、それに相応しい一つの品種名を考察し、これを「認定品種」として登録。詳しい特性を残した記録や図譜は無く、実物と伝承を拠りどころに、２０年以上の試作を続けて拾い上げていったものである。こうして決めた認定品種は３２２に達する。原色図譜も刊行され、全国的な栽培家の規範となっており、これによって収集し同定ができることとなり、混乱の解消が進められることとなった。

■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数

・２９２品種

・１品種につき２鉢所有（※一部は１鉢のものもある）

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

サクラソウの園芸品種には複数の名前の付いているもの（異名同品）が多く存在するため、「さくらそう会」が品種を整理してきた。

その品種数は３２２品種であり、当園では、同会が認定する品種のうちこれまで延べ３０４品種を栽培し、現在２９２品種を保有している。

■コレクションの栽培管理状況（所在地が分散している場合にもここに列記）

当園の圃場（バックヤード）で栽培管理を継続して実施し、花期に来園者が見られるように、本園内で展示を行っている。

また、サクラソウの栽培技術の継承のため、２０１８年度より、後継者育成のため、主担当を２人に増員し、かつ、植替え等の作業量が多いときは、他の栽培担当職員（全４名）でフォローして、栽培に取り組んでいる。

■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

２０１７年に台帳を作成して、毎年、入手や枯死等の情報を調査して整理することで、栽培品種データベースの更新を実施している。

■コレクションのラベル表記状況（栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど）

すべての鉢に、栽培管理用として、「さくらそう会」の認定番号、園独自の管理番号のラベルを付けて管理している。

また、毎年、開花時に、同会の協力のもと、ラベルの確認作業を行っている。

■コレクションへの協力団体・協力者（種名の同定、導入など）

当園のコレクションは、「さくらそう会」から苗の提供をうけているものであり、当園から無くなった品種をリスト化して同会に依頼することで、苗の補充を受けている。

また、毎年、開花時期である４～５月に、同会世話人代表の鳥居恒夫氏に品種名の確認を依頼し、間違った名前がついているものは訂正することで、正確性を担保している。

その他、同会と当園栽培担当職員との植替えや展示の相互協力をしている。

■コレクションの長期保存のための方策と体制（増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等）

保有種が枯損した場合は「さくらそう会」から苗の補充を受けるなど、必要に応じて同会と連携して、コレクションを保存していく。

当園の苗に余剰があり、提供可能な状況であれば、公立植物園等、他園等への分譲もその都度検討し、危険分散を図っていく。

■コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績（研究等を含む）

毎年４月～５月に、園内の屋外展示場を設営し、その中に開花したサクラソウを展示している。

展示では、江戸時代、明治時代、大正時代、昭和時代と作出年代別に展示することで歴史のある植物であることを周知するとともに、桜草花壇ではその解説板を設置することで、文化的側面の広報も実施している。

１９６２年の春から、６２年間継続してさくらそう展を開催しており、また、１９６３年から「さくらそう会」の協賛のもと展示を行っている。